



環境問題の移り変わり

どう変わってきたんだろう？

産業公害 (昭和30～40年代)

第二次世界大戦後の経済復興の中で、日本の産業が急速に発展し、たくさんの建物や工場が建てられました。そして、神奈川県でも、京浜工業地帯を中心に大気汚染や水質汚濁などの公害が問題になりました。

そこで、公害から人々の生活を守るため、条例や法律の制定、企業の取組など様々な対策がとられました。

○県の対策

- 神奈川県事業場公害防止条例(昭和26年)
- 神奈川県公害の防止に関する条例(昭和39年)
- 良好な環境の確保に関する基本条例(昭和46年)など

○国の対策

- 公害対策基本法(昭和42年)
- 大気汚染防止法(昭和43年)
- 水質汚濁防止法(昭和45年)など

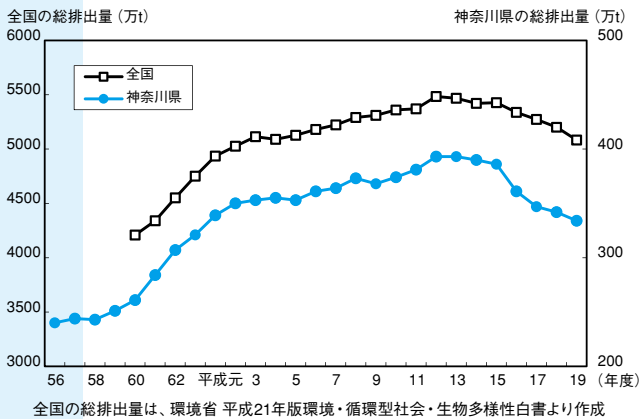
●昭和30年代から40年代の大気汚染の状況



都市化の進展に伴う公害 (昭和40～60年代)

産業公害が法整備や企業の努力により改善された一方で、人口や社会経済活動の都市への集中により、生活排水による河川や海の汚濁、大量に排出されるごみの処理、自動車交通量の増大に伴う大気汚染・騒音・振動など、都市生活に関係した公害が顕著になりました。

●ごみの総排出量の推移



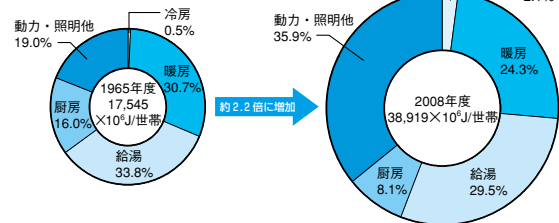
地球規模の環境問題 (現在)

ものやエネルギーを大量生産・大量消費・大量廃棄する社会経済活動やライフスタイルが定着し、私たちがより便利で快適な生活を求めることにより、地球温暖化やオゾン層*の破壊など一地域や一国にとどまらない地球規模の環境問題が顕在化してきました。

※オゾン層

太陽光に含まれる有害な紫外線の大部分を吸収して、地球上の生物を守っています。しかし、このオゾン層がフロン等の化学物質によって破壊され、減少しています。

●世帯当たりのエネルギー消費原単位と用途別エネルギー消費の推移



【注】「総合エネルギー統計」では、1990年度以降、数値の算出方法が変更されている。
【出所】(財)日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」、資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」をもとに作成

経済産業省 資源エネルギー庁エネルギー白書 2010 より

環境問題の多くは、社会・経済活動や私たちの日常生活に深く関わっていることから、環境問題を改善・解決していくためには、私たち一人ひとりが現在の状況を認識し、情報を共有し、行動していくことが必要です。

そのためにこの冊子を活用し、環境問題についての理解を深めましょう。

